



## 国際センター通信 (No. 20)

### 調査研究部門活動紹介 第1回 海岸工学委員会

海岸工学委員会は1955年に設置されました。現委員会は、委員48名（内、幹事兼務16名）、幹事3名、相談役8名であり、委員には関連分野の官公庁や企業から20名が参画しています。設立以来継続してきた委員会活動の柱は、海岸工学講演会の開催および論文集の発刊です。また、国際学術誌 CEJ (Coastal Engineering Journal)の編集を主導し、国際海岸工学会議を二回主催するとともにアジア太平洋海岸国際会議(APAC)を企画するなど、海外への学術成果の発信と国際的な学術の普及に特段の努力を払っています。

常置の小委員会としては、海岸工学論文集の編集を所管する論文集編集小委員会、CEJ 編集小委員会、広報小委員会および沿岸域研究連携推進小委員会があります。さらに、刻々と変化する社会の要請や研究動向に柔軟に対応するため、各種研究小委員会やWG組織を設置しています。現在、津波被害推定および軽減技術研究小委員会、数値波動水槽研究小委員会、地球温暖化適応策検討小委員会および波動モデル研究小委員会の小委員会が活動を行っています。



海岸工学委員会 委員長  
東京大学 佐藤慎司

第1回の海岸工学講演会は1954年に神戸市にて開催され、現在では、波・流れ、漂砂・海浜変形、構造物、防災、環境など広範な分野をカバーし、毎年の講演数も例年約300件を数えます。海岸工学講演会とあわせて、海岸工学論文集（2008年から土木学会論文集 B2（海岸工学）特集号）が発刊され、年間300編程度の論文が掲載されています（図-1）。海岸工学講演会に加えて、水工学委員会と共同で水工学に関する夏期研修会を実施しており、2014年で50回目の開催を迎えます。

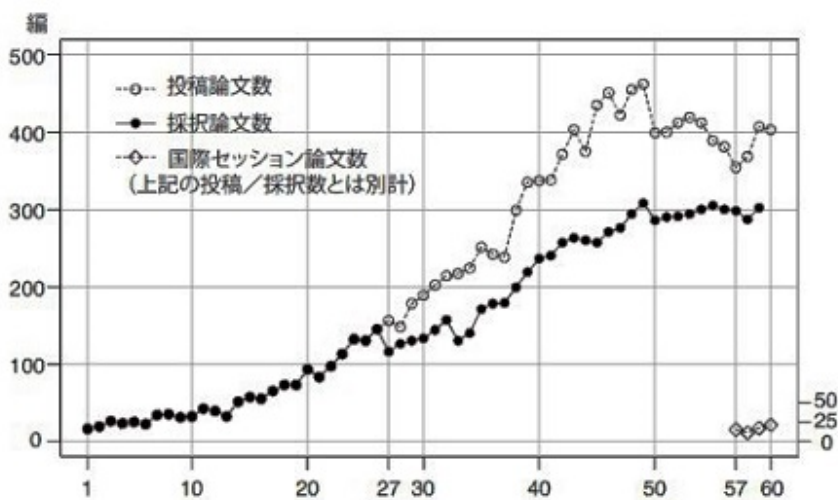


図-1 土木学会論文集 B2 (海岸工学) への投稿論文数および採択論文数

東日本大震災では、海岸工学委員会のメンバーが中心となり、東北地方太平洋沖地震津波の調査を実施するとともに合同調査グループの情報配信の後方支援を行い、津波痕跡調査における情報拠点として内外に貢献を果たしました。

(<http://www.coastal.jp/ttjt/>)

今後も、国内外の海岸工学研究者および課題の橋渡しをできるような委員会運営を続けていく予定です。

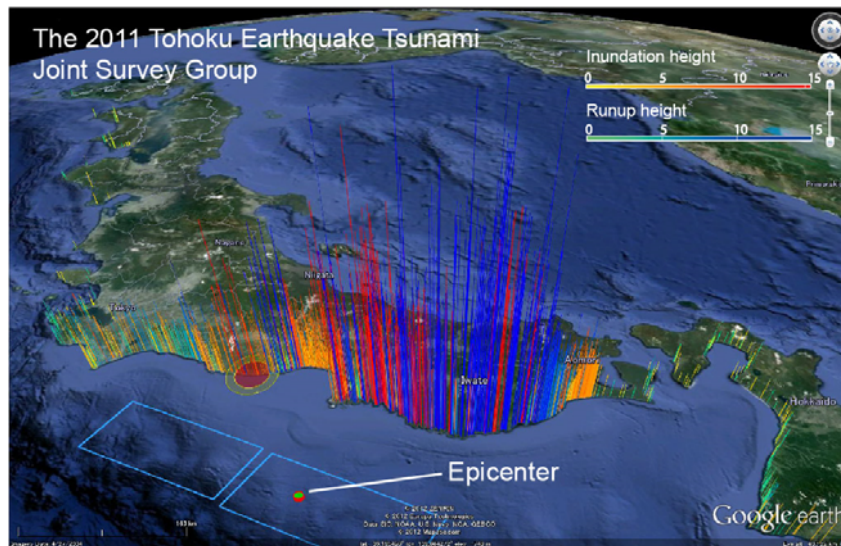


図 - 2 2011年東日本大震災津波浸水高・遡上高調査の概要図

## 第2回日越土木技術セミナー開催報告

2014年3月12日ベトナム、ハノイの国家建設大学において、日越土木技術者協力促進センターおよび土木学会の主催で第2回日越土木技術セミナーを開催しました。ベトナムの建設省、運輸省や企業の専門家、大学教授、大学院生など多くの参加者を集めました。以下に概要を報告いたします。

セミナーは Cuong 国家建設大学副学長の開会挨拶に始まり、①日本の ITS 技術：塚田幸広氏（国土技術政策総合研究所）、②日本の舗装技術：藤田仁氏（(一社)道路建設協会、日本道路(株)）、③ベトナムの高速道路の現状と計画：Tuan 氏（DRVN、高速道路管理事務所所長）、④ベトナムの交通の現状と対策：Hiep 准教授（国家建設大学計画・交通研究所）4つの講演が行われました。そして質疑がなされた後、Giang 日越土木技術者協力促進センター長の閉会挨拶がなされて閉会しました。



熱心に聞き入るセミナー参加者

日越土木技術セミナーは今回で2回目となりましたが、講演中及び質疑時間において学生の真剣かつ積極的な姿勢を感じました。また、講演内容が基本的な内容でしたので、参加者の我が国における ITS、舗装技術に対する理解が高まったものと確信しました。



円卓会議における舗装技術セッション

セミナー開催後、日本とベトナムの専門家による「軟弱地盤対策と舗装技術に関する専門家円卓会議」を開催しました。日本からは塚田幸広氏（軟弱地盤）、藤田仁氏（舗装技術）、田中良寛氏の3名、ベトナム側は Dr. Giang (NUCE、推進センター長)、Dr. Thanh (建設大臣秘書・品質管理局副局長)、Dr. Thanh (Vidifi 社の技術担当)、Dr. Phung (NUCE 道路技術科の学科長) 他十数名が参加しました。

軟弱地盤対策については、FECON 社の専門家からベトナムにおけるプラント等の軟弱地盤対策事例（バーチカルドレーン（サンドドレーン、ペーパードレーン及び深層混合処理工法の事例））の紹介がなされ、論議しました。また、舗装技術については、ベトナムの舗装の早期破壊事例について紹介があり、この報告に基づき早期破壊の原因と対策について論議しました。

円卓会議では、軟弱地盤対策、舗装技術ともにベトナム側の関心が高いテーマであり、大学、関係省庁、民間の専門家による会議であったことから、各々具体的な事象に基づき、非常に熱心な議論が繰り広げられました。このような少人数の専門家同士の情報交換は、今後とも定期的に開催することが有意義です。



円卓会議の参加者  
日越土木技術者協力促進センター図書室前

【記 国際センター国際交流 Gr.ベトナムグループ】

### 国際センターシンポジウム講演会 「日本の建設企業の海外進出を考える」第3回開催報告

国際センター教育グループでは、我が国の建設企業の海外展開へ向けた人材のグローバル化に対する支援活動の一環として、国際シンポジウム講演会を3回シリーズとして開催しました。今回は最終回として「事業の多様化に向けてー海外企業の事業展開の現状」と題した講演会を開催しました。世界規模で活躍されている海外企業の方をお招きし、それぞれの企業の活動また海外展開についての考え方をご講演頂きました。当日は建設産業に携わる産官学より計72名の参加がありました。



講演会の様子（大橋氏）

講演会の第1部では、「海外インフラ事業(含 PPP)概要ケーススタディと海外建設会社の関与について」と題して、マッコーリーキャピタル証券会社の大橋 純氏にご講演頂きました。銀行業務、アドバイザー、投資とファンドマネジメントサービスを全世界で提供するマッコーリーグループにおけるインフラビジネス展開について、同社の事例を通じてご紹介いただきました。投資会社から見たPPPの考え方やM&Aを通じた海外進出など、普段なかなか聞く事の出来ない貴重なご講演をいただき、その後の質疑を含め活発な意見交換がなされました。



講演会の様子（岡氏）

また第2部では、「海外企業の海外展開 日本での足跡」と題して、レンドリース・ジャパン株式会社岡 正信氏にご講演頂きました。国際的企業における海外拠点として日本での経営に携わってこられた氏の経験をもとに、海外拠点としての日本での事業展開や、海外本社との視点の違いなどをご紹介いただきました。今後海外進出を目指す企業にとって、海外拠点と日本本社のあり方を考える上で大切な示唆が多く含まれており、海外進出を目指す企業に属する聴講者の皆様は熱心に聞き入っていました。

本講演会は3回シリーズとして企画され、海外で活躍する日本企業および世界で活躍する海外企業から講師を招き、その経験を踏まえたご講演を頂いてきました。国際センター教育グループではこのような取り組みが、日本の企業で海外に進出を考えている方々の一助になると考えています。

なお、次回シリーズとして、実際に国際展開を行っている海外の建設企業の方を講師として招き、建設企業としての国際展開のあり方をご講演頂くシンポジウムを今冬から来年初頭を目途に開催する予定としております。

## 【記 国際センター教育グループ】

### 国際センターの活動 (土木学会会長 橋本 鋼太郎)

5月21日 JSCE (土木学会) と VFCEA (ベトナム土木協会) でインフラ整備のための技術者資格をテーマとして合同セミナーをベトナムのハノイ市で開催しました。

開催にあたってはベトナムの MOT (運輸省)、MOC (建設省)、VFCEA、VIBRA (ベトナム橋梁道路協会)、VASECT (ベトナム構造建築技術協会)、NUCE (国家建設大学)、そして日本側では JSCE (国際センターおよび技術推進機構) 国土交通省、JICA、民間企業等の熱心な協力がありました。

現在ベトナムでは道路、港湾、空港、都市開発、水資源、防災、下水道、地下鉄等の多数のプロジェクトが進行中であり、建設マネジメント分野等も含めて多数のセミナーが開催されています。

JSCE は既に 32 の海外学協会と協定を締結しており、国際センターには 11 カ国の国別担当グループと 9 カ国の海外分会が設けられています。活動が順調に進められている国とそうではない国もあります。

国際センターが中心となって、相手国のニーズに応える二国間交流の充実を図る必要があります。そのためには、国別に中心になっている Working Group (活動グループを含む) を設け、活動のプランを策定し計画的に実施して行くことが必要です。その際に、国内においては国土交通省、JICA 等、民間企業 (建設会社、建設コンサルタント、大手企業等)、海外においては相手国の政府、協定学協会、JSCE の海外分会、現地大使館、現地で活動している民間企業等の連携が不可欠です。一般的戦略検討の段階を卒業し、個別に実践的、現実的交流活動プランを策定し、それを実施して相手国の発展、安全に貢献していくことが望まれます。

### イベント情報

- 2014/6/13~14・・・モンゴル土木学会年次大会 (モンゴル - ウランバートル)
- 2014/8/5・・・世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第2回シンポジウム (東京 - 土木学会)
- 2014/8/26~28・・・インドネシア土木構造工学会 (HAKI) 年次大会 (インドネシア - ジャカルタ)
- 2014/8/28~29・・・日本-韓国-台湾ジョイントセミナー (韓国 - 釜山)

### お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website (英語版) にアップしました。  
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 37 が発行されました。  
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>

## ご協力をお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、さらに配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくようご案内いただけませんか。何卒、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・日本語版：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版：<http://www.jsce-int.org/node/150>

## ◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。国内外の産学官界に所属する技術者、研究者、行政官および学生等に配信すべきと考える記事を投稿してください。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。

国際センター通信をより充実した、読み応えあるものにして行きたいと考えておりますので、ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

記事投稿の詳細はコチラ>>> <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

## ◆国際センター通信アンケート◆

毎月国際センター通信をご愛読いただき、誠にありがとうございます。おかげさまで、今号で20回目の発行を迎えました。日頃ご愛読いただいております読者の皆様にアンケートにご協力いただきたく、よろしくお願いいたします。本件アンケートを基に今後の国際センター通信に掲載する記事等の参考にさせていただきたいと存じます。お忙しいところ申し訳ありませんが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

アンケートはコチラ>>> <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/64>

## Yの独り言

5月21日ハノイでのセミナーからちょうど戻ったところです。JSCEとVFCEAの交流そして今後の技術者の向上という意味でとても有意義なセミナーでした。国交省、大手建設企業、そしてJSCEで構成されたJSCE代表団は、それぞれ官・民・学術団体の視点から土木技術者の資質の向上について意見を述べました。JSCE側の意見や情報は、現在インフラ整備が急激に進む中で、様々な課題に直面しているベトナムの土木技術者のまさに求めている内容でした。これからもベトナムグループがさらにベトナムと日本間をつなぎ、両国の技術者間をつないでいって欲しいです。まあ、そうしないとイケませんね。最後に一言、あれほど多くのバイクが道を走っているのを見たことがありませんでした。私たちの車は、まるでバイクの波の中を泳いでいるようでした。

【ご意見・ご質問】：JSCE IAC: [iac-news@jsce.or.jp](mailto:iac-news@jsce.or.jp)

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

